

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 23 日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先大学:	北京大学、西南交通大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: 商社など)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

大学交流がメインのプログラムではなかったが、北京大学では光華学院(商学部)の学生とのディスカッションや校内見学、さらに日中国交正常化45周年記念として日中の大学生1000人が一堂に会する千人交流会が開かれるとのことで、そこに参加することが目的であった。また、成都市にある西南交通大学では最新鋭の光学技術を目にするだけでなく学生間の交流も行うことが研修の概要であった。

参加した動機

前期教養課程の授業で南京を訪れてから中国への興味が深まり、今回北京と成都を訪問できるだけでなく学生交流も行えるというプログラムが非常に魅力的だった。また、夏学期に中国語を勉強していたので実際に現地の人との会話で自分が学んだ言語を使ってみたかった。さらに、各大学から集まって訪中するというので、同じ目的を持った学生間の交流も期待していた。個人での金銭負担が少ない中で多くの観光名所や食文化に触れるという充実した体験ができること、さらに日中交流という旅行では行えないことを体験できるということが一番の動機である。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

学内選考のための履歴書、エントリーシート記入(この形式は今回が特殊で、普段は日中友好協会が選考を行うとのことで次回以降は異なる参加手続きが必要だと伺った)。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学研災の付帯海学を自己負担で、中国大使館の援助によりもう一つ加入する。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

指導教官にプログラムの概要を説明して承諾のサインをいただいた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特に必要とはされていなかったが、中国語を勉強して簡単な日常会話ができるレベルにはしていた。観光や学生交流において役立ったと感じることもあった。基本単語を知っておくだけでも良いと思っている。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特になし。交流する大学の学生へ日本土産(お菓子などでよい)を買っておくと喜ばれる。中国語の勉強は多少なりともしておくより楽しめるとは考えている。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

日中国交正常化45周年を記念した千人交流会に参加することが今回の主目的であった。これは今回北京大学にて行われたので、北京大学の学生と交流する機会もあった。北京では万里の長城や故宮博物院などの観光も行い名所旧跡を訪れることができた。その後自然賞の成都に移動し、そこでも観光のほか西南交通大学を訪れて意見交換などの学生交流を行った。また、一週間を通して中国が今力を入れている分野や画期的な取り組みに触れることができ、ベンチャー企業を立ち上げる新規事業を支援する創業公社や青少年教育を行う施設の見学も行うという内容であった。

②学習・研究面でのアドバイス

特になし。事前に中国経済のことや現在の中国の情勢について知識があるとなお興味を持って話を聞いたり意見交換をしたりできるだろう。

③語学面での苦労・アドバイス等

中国語は発音が難しいので諸学の際には何らかの授業をとるなどネイティブの人と学んだほうが良いように感じる。特にまとまった文章の聞き取りには苦労している。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

4つ星の豪華なホテルに宿泊させていただいた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏に訪問したため比較的暑い(東京と同程度)。成都是盆地であるため湿度が高く曇りの日が多い。空気は日本で言われるほど汚くないが、特に晴れた日が続くと北京市内は霞がかって見える。移動手段はバスであり、食事は中国大使館が負担してくださった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
夜に関しても治安は特に問題ない。水道水は飲めないが、ホテルで毎日支給されるので問題ない。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃や宿泊費、食費を負担していただいたのでお土産代を含めても一週間で2万円弱で過ごすことができる。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
絞り染めやカンフーなどの体験ができたほか、変面や茶芸といった伝統芸能を目にすることもできた。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
語学に関しては日本語が通じる人が多いので問題ないと思われる。皆さんフレンドリーに接して下さりサポートもしっかりしている。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
特になし。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
志望動機にも関連するが、やはり海外の学生交流ができるというのは大きな醍醐味である。同世代の学生とディスカッションしたり学生生活の話をしたりすることで自分の考えが深まるだけでなく、非常に面白い話をできたので有意義な経験だった。また、今回は中国各地の観光名所を巡ったり四川料理、北京料理を味わったりすることができ、文化理解という意味でも非常に実り多い訪中だった。そして創業公社や大学の研究を目にしたことで自分の今後の研究に対する考えを深めることができただけでなく日本の抱える課題や中国の現状についても考えることができたので良い機会となった。さらにともに訪中した仲間とも楽しく過ごせただけでなく、また訪中をしたいという話にもなり今後とも続く関係を築くことができたので、これも日中友好につながる大切なことである。
②参加後の予定
中国の別の地域も訪れてみたい。また今後とも中国語の学習は続けていく。そして今回出会った中国人学生や訪中団の仲間と今後も連絡を取り交流を続けていく。そして将来仕事を行う上では中国市場も視野に入れて考えていきたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

一週間という短いプログラムですが非常に密度が濃く、楽しめる内容となっています。普段経験することができない視点から中国を体感することができ、人間関係も広がるのでお勧めのプログラムです。中国語を勉強しておくことや中国経済に興味を持っておくことをお勧めします。また、年に三回募集があるのでアンテナを張っておきましょう。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

日中友好協会のWebサイト

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9月 11日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	日中友好訪中団	派遣先:	
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣プログラムの概要

中国の学生と交流し、また中国の偉大な場所を訪れることで中国に対する認識を深める。

参加した動機

中国に行ったことはなかったのですが、中国の学生とたくさん交流できるということでお互いの文化を良く理解したいと参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

しおりなどが充実していたので、それをしっかり読み準備すれば大丈夫でした。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で指定されたものに入りました。海外で体調を悪くしたときのサポートが厚いものでした。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
様々な語学レベルの人がいますが、多少中国語が分かるとより楽しくなると思います。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
向こうで体調を悪くしないように、特に行く直前は体調管理をしっかりすると思います。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
中国の学生と交流できるのは非常に良い機会でした。日本に来るときも連絡してくれるくらい仲の良い友達もできると思います。
②学習・研究面でのアドバイス
③語学面での苦労・アドバイス等
皆が英語を話せるわけではないので、中国語ができると行動の幅が増えると思います。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
とても過ごしやすいホテルなどを提供してもらいました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
夏だったこともあり空気もきれいな方でしたが、マスクなどは持っていくとより快適に過ごせると思います。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
お土産代と一定の参加費用が主な費用となります。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
日本語が堪能な中国の学生が多く参加していました。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
中国に対するイメージが大きく変わります。自分を大きく成長させることができる場としても非常にためになりました。
②参加後の予定
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
参加可能な人は是非ふるって応募してほしいと思います。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月15日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先大学:	北京大学・西南交通大学等
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:金融)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学は北京市にあり、精華大学と並んで中国でトップを争う大学。西南交通大学は四川省成都市にあり、理工系に強みを持つ。

参加した動機

就職活動を終えた大学4年の夏休みは、将来の進路と直接的に関係がないと思われることであってもじっくりと腰を据えて取り組むことができる時間であると思った。また、就職してからは1週間単位で自由に使える時間を確保することは困難であり、学生でなければできないことをできるだけ多く経験しておきたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

申込み期間が試験前であった。何かと負担を避けたい時期ではあるが、今回のプログラムに限らずこの時期に色々を探してみると充実した夏休みを送ることができる。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは申請していない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に行わなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

プログラムで指定された海外旅行保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位が出るプログラムではないため、海外渡航届を提出した程度。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特に行わなかった。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
コンセント差込口の形が日本と異なるとの事前情報を得ていたが、ホテルや大学等多くの場所で日本のコンセントプラグが使用できたので、結局変換器は使わなかった(電圧は日本と異なるので、国際対応していない、かつデリケートな電子機器の使用は注意を要する)。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
今回のプログラムはどちらかというと観光がメインであり、大学で講義を受ける機会はなかった。
②学習・研究面でのアドバイス
同上
③語学面での苦勞・アドバイス等
交流した学生は日本語学科の学生が多く、また日本語が通じなくとも英語が通じたので学生との意思疎通に苦勞はなかった。しかし、街の人々には簡単な英語すら通じないことが多々あるので簡単な中国語は事前にメモしておくとう便利。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
参加者全員、指定のホテルに宿泊した。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
夏は日本ほど蒸し暑くはない。汗もさほどかかなかった。お金はガイドが日本円から中国元へと換金してくれた。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
屋台での飲食や水道水を飲むことは避けるように指示されたため、体調を崩す人は見受けられなかった。ただし、辛いものや脂っこい食事でお腹を壊さないよう、あまり食べすぎないようにするとよいかもしれない。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
渡航費や食事代、宿泊費、交通費は支給されたため、自己負担した費用は酒やお菓子の購入費とお土産代のみだった。これらの費用に限っていえば、1日あたり1000円分もあれば十分。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
朝や夜の自由時間は、ホテル近辺の観光をしていた人が多かった。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
大学は1日訪問するだけなので、使うことはなかった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
大学は1日訪問するだけなので、使うことはなかった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
私は今回の北京・成都への訪問と現地学生との交流を通じて、当プログラムの大きな目的の一つである中国への理解に加えて、現地の学生との交流を通じて日本という国を客観的に捉え直すことができたと感じている。また、高校の地理等で学習した事象は、頭では分かっているつもりでも実際に現地に足を運び、現地の人々の暮らしを間近で観察してみなければ、リアルな事象として語ることはできない。今回の訪中はそのような、「紙の上の知識として知っていた」ことが「自分の体験レベルでの実感」として立ち現れたという点で非常に印象深いものであった。 私が気づいた点の1つが、中国国内における格差の問題である。大学受験の知識として「経済発展が進んでいる沿岸部と、開発が遅れ貧しい内陸部」という構造が指摘されることがある。しかし、今回私が感じたのは沿岸部と内陸部の経済格差ではなく、都市部の国民の間に生じている教育格差であった。北京大学や西南交通大学では交流相手に日本語を話せる学生が多く、英語で話す機会はありませんでした(せっかく両国とも国際語としての英語を学ばせているのだから、日本語を解さない現地の学生と英語で交流する機会があってもよかったと思う)が、殆どの場合彼らは流暢な英語を話せる状態であった。しかし、街に出てコンビニや土産店の店員と英語でコミュニケーションをとろうと試みても、不思議と英語が殆ど通じないことに驚いた。日本では何十年も前から、多くの人が中学～高校にかけて少なくとも6年間英語を学ぶ環境に置かれており、町中で外国人に話しかけられても片言の英語でなんとか対応できそうではあるまいか。これに対し、私が北京や成都で話しかけた現地の人々は、「右」や「左」といった非常に簡単な単語すら英語で話そうとしなかった。外国人とのコミュニケーションもスマートフォンの翻訳機能があればそれで何とかなってしまうのかもしれないが、北京大学や西南交通大学の学生が流暢な英語を話していたのとは対照的な光景であった。私達が交流した北京大学や西南交通大学は中国の中でもエリート大学であり、そこに通う学生は幼い頃から手厚い教育を受けてきたものと推察される。 プログラム中に耳に挟んだが、中国では殆どの学生は学業と平行してアルバイトをしないのだという。すると街のコンビニや土産店等の店員はその多くが学生のアルバイトではなく、それを本業として生活している人であると考えられる。調べてみたところ中国の高校進学率は90%、大学進学率は40%程度だという。大学に進学した人はホワイトカラーの仕事に就くことが多いであろうから、街の店員の多くが大学に進学していないとしても、高校にまで進学してごく簡単な英語を解さないというのも不自然な話である。英語教育に重点が置かれていないのか、ごく最近まで中国人がこのような教育水準に置かれていなかったのかは定かでないが、とにかく事実として中国人の英語力に相当な格差が存在するようであった。 またもう一つ私が気づいた点として、北京第二外国語学院や北京大学、西南交通大学で日本語を学習している中国人学生に日本語を学び始めた理由を訊いてみると、殆どの学生がアニメ・漫画等の日本のサブカルチャーが好きだったから、またその他親戚が日本にいるから、日本語が美しいと思ったから等の理由を答えてくれた。日本のサブカルチャーが海外で人気を博しているのは結構なことなのだが、私が危惧したのは「将来的に日本で働きたい、日本語を仕事で使いたい」という学生に殆ど出会うことができなかった(1人だけいた)という点である。私が就職活動をしていたときには、日本企業あるいは外資系企業の東京オフィスの選考を受けていた中国人留学生に何人か出会ったため、中国人学生にとって、日本の労働市場は依然として魅力的なのではないかと思い込んでいた。そのため、仕事で日本市場をターゲットにしたいという中国人学生が殆どいなかったことは予想外であった。恐らくは、多くのエリート学生は中国ないし米国の企業を就職先として選択するということなのだろう。 少し前にHUAWEIが日本で初任給40/43万円です求人を出したことが話題になっていたが、もはや中国のエリートが高い給料とよい仕事を求めて日本の労働市場に参入する時代は終わったのかもしれない。ここ数年、日本人学生が若いときから高い給料をもらえること等を理由に国内の大企業に就職せず、外資系企業に就職したいと考える傾向は顕著であるが、そのような外資系企業の中に中国系の企業が名を連ね始める日もそう遠くないのではないだろうか。 以上に述べた中国と日本の英語教育と労働市場に関する考察は、奇しくも昨今のグローバル化の話題と密接に関連している。日々、膨大な量の経済ニュース等をただ概観するだけでなく、今回の訪中で現地の人々・中国人学生と話した経験や、そこで得たナマの知識を自分自身の糧として、それらの情報を批判的に読む姿勢を大切にしたいと改めて感じた。

②参加後の予定

日中友好協会主催のプログラム報告イベントに参加する予定である。また、中国人学生と連絡先(WeChat)を交換したため、今後お互いに国を行き来することがあれば会う機会を設けたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

多少準備が面倒だったり、種々の不安があったりするかも知れないが、1週間単位でまとまった時間を使って外国に行くのは学生のうちでないとできない。また普通の旅行と違って現地学生と交流する機会が豊富であるため、参加後もコミュニティを維持することができるのが大きなメリットである。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

日中友好協会からの案内・パンフレット

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月25日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他(未定)		

派遣プログラムの概要

日中友好訪中団の団員として中国を訪問し、日中千人交流会を始めとして現地の学生と交流し、中国への理解を深める。

参加した動機

以前中国を訪れたことがあり、それから数年たってこの国がどのように変わったのか自分の目で確かめてみたいと思ったから。また、これまで大学で学んできた中国語を現地で実際に使ってさらに向上させたいと思ったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

事前に健康診断等は受けなかったが、お腹の薬を中心に準備していった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険の加入が必須だった。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
中国語は大学で2年ほど学習していた。応募時に中国語力は必須ではなかったが、中国の人々と交流するのに非常に役に立った。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
現地の学生と仲良くなるチャンスが多いので、簡単なお土産を持っていくと良いと思う。また、帰国後も中国の学生と連絡が取れるのでWE CHATはぜひ入れておくべき。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
中国の大学生と交流したり、現地の企業を見学したり、名所旧跡を巡るなどする中で、現在の中国を生で感じる事ができた。
②学習・研究面でのアドバイス
訪問する予定の場所について事前に少しでも調べていくと、より理解が深まるかもしれない。特に中国の歴史について大まかにでも知っておくと役に立つと思う。
③語学面での苦労・アドバイス等
日本語の話せる中国人学生でも中国語で話しかけると喜ばれるし、語学力を使えば一般の中国人とも会話ふれあう機会が広がるので、中国語はぜひ勉強していくべき。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
プログラムで用意されていたホテルに宿泊した。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気温は、事前に聞いていたよりも寒く上着が必要な日もあった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特になし。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
持参するのは日本円で5000円程度で十分だった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
受給しなかった。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
夜間に自由に市街を散策する時間があった。
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
サポートは十分だったと思う。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
特になし。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
新聞やテレビのニュースで知るのは違う、本当の中国の今を肌で感じることができ、中国に対する印象が変わった。
②参加後の予定
現地へ行ってみて自分の語学力の不足を痛感し、語学学習のモチベーションが向上した。秋には中国語の検定試験を受ける予定である。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
できるだけ機会を見つけて積極的に中国人に話しかけに行くと、得られるものは大きいと思う。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 4 日

東京大学での所属学部・研究科等:	農学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	日中大学生訪中団	派遣先大学:	
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: 製薬)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

--

参加した動機

プログラムにかかる費用が安価であったから、様々なプログラムがある中で大学院入試の日程に被らない唯一のプログラムであったから、第二外国語で選択しているなど中国に興味は持っていたが1人で行くにはハードルが高かったから。
--

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは必要なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬を持っていたのみ。予防接種なし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校で勧められた保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

海外渡航届のみ提出。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
第二外国語で中国語を学習したのみで簡単な日常会話レベル。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
中国語の勉強をもう少し真面目に行っていればよかった。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
日中学生の交流が主な目的。北京大学での大学生千人交流や西南交通大学の学生との交流など。空いている時間は観光に連れて行ってくれる。ほとんど自由時間はないほどプログラムが充実していた。
②学習・研究面でのアドバイス
英語が通じたのは北京大学の学生くらいで他の学生はほとんど中国語しか通じないので多少勉強していくのがベター。日本語に通訳してくれる中国人学生が時々サポートしてくれる。
③語学面での苦労・アドバイス等
上記同様、中国語を勉強していくのがベター。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
日本の学生と相部屋、基本的に同じ大学、近い学年の学生と同じ部屋。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
北京では乾燥に加え少しだけ空気の悪さが気になったが、成都是湿度が高くあまり空気の悪さは気にならなかった。食事は全てプログラム側が負担してくれるのでお金はほとんど使わなかった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
複数人で出歩いてたためか、夜怖い思いをすることが全くないほど治安は良かった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム参加費1万円、保険加入5000円弱、お土産代のみ

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
割愛。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
北京では北京大二外国語大学の日本語専攻の学生が、成都では西南交通大学の日本語専攻の学生が通訳してくれた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
大学に通うプログラムではないので割愛。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
初めての中国渡航であまり良い印象を抱いていなかったが、渡航後中国に対する印象がとても良くなった。また日本に比べて発展のスピードが速くこれから日本の全ての面で勝てなくなるのではないかと感じた。
②参加後の予定
来年度から大学院進学予定。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
中国に少しでも興味があるが渡航に踏み切れていない学生は応募すべき。理系学生は全体で1割未満でとても少なかったがそれでも楽しく様々学べた。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
Wechatをダウンロードすべき。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9 月 7 日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: 金融)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

現地の大学生との交流や中国国内の視察

参加した動機

中国トップクラスの学生と交流し、何が中国躍進の原動力となっているのかを肌で感じたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

電子媒体、紙媒体の両方で参加案内が来ます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ申請なし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等)に関して)

成績評価係数の算出、成績証明書(英文)の発行、担当教員からのサイン受領

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
TOEIC900点
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
自発的に中国語を勉強してから訪中したほうがよいと感じました。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
北京大学での千人交流大会、西南交通大学での交流など
②学習・研究面でのアドバイス
前もって中国語を多少なりとも学習すべきと感じました。
③語学面での苦労・アドバイス等
現地の人の多くは英語が通じません。全く中国語がわからないとコミュニケーションに苦労します。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホテル
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
東京より若干涼しい程度。物価が非常に安いです。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
現地の屋台等で売っている生ものには手を出さないようにしました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
参加費用1万円+お土産代1万円程度

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
短期のため特になし
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
友好協会のスタッフの方、ガイドの方が相談に乗ってくれます。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
特になし(大学留学ではないため)
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
中国に対するイメージが変わりました。日本人同様、非常に親切な人が多いです。また、北京大学の学生は概して非常に優秀です。東大生と比べても英語力が高く、私ももっと語学力をはじめとした世界で活躍するための力をつけなければならないと感じました。
②参加後の予定
民間就職
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
『交流は通訳あり』と書かれていますが、ぜひ中国語を勉強していきましょう！！
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 14 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☐	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

訪中団に参加し、北京、成都を他の大学生とともに100人ほどで訪問した。北京大学での千人交流会が主なイベントで、主要な観光地等をまわり、中国人学生や現地の方と交流をしました。

参加した動機

日中間の親密感を醸成する一助になるとともに、中国の学生との交流や現地視察を通じて中国の多様な文化や人々の共存のあり方を肌感覚的に知りたいたと考えていたからです。留学先で、留学生として来仏している中国の友人と知り合う機会が多くあり、彼らはいわゆる「中国人」のイメージとは全く異なりました。しかし、日本に帰国してから中国に対するネガティブなメディア報道を目にすることが多く、「中国人」とひとくくりにして先入観をもって話す人もいて、「中国人もひとりひとり違うし人間的に素晴らしい人もたくさんいる。」と説得してもなかなか考えを変えてくれず、非常に違和感をおぼえました。このように身近で生まれている溝を埋め、親密感を醸成する活動に参加したいと思うようになりました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大の場合は書類選考なので、申請書の参加動機を自分の体験にひも付けて論理的に述べることが重要です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬(特に胃腸関係の薬)を持っていくと便利です。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から斡旋される海外旅行保険に加入。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
簡単な中国語が話せると便利です。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
胃腸関係の薬を持参すると、辛いものをたくさん食べられます。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
北京での千人交流会は大規模に行われ、中国側からも日本側からもスペシャルゲストが招かれ、規模の大きさが印象に残りました。北京大学や北京第二外国語大学の学生とも交流でき、日本側の大学生とも多くの人と交流できるため、他大学の学生と交流する機会としても有効です。 普段の観光ではなかなか訪れることの少ない、北京大学や創業支援を行う施設、都市計画に関する博物館も訪れることができ、単なる中国旅行にとどまらない経験をすることができました。
②学習・研究面でのアドバイス
特になし
③語学面での苦労・アドバイス等
私は中国語が全く話せない状態で行ったため、少しでも中国語を勉強していったらよかったと思いました。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
日中友好協会がすべて手配してくださいました
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
日中友好協会が至れり尽くせりで両替までしてくださいます。食事もすべてついています。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
数人で出歩けば北京も成都も夜中まで歩くことができました。ただ、人通りが多い道を選ぶようにしていました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
参加費とお土産代のみ。(1万5千円)
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
特になし
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
特になし
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
日中友好協会による研修が滞在前にあります。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
特になし
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
私は数年前、中国に旅行で行ったことが数回ありますが、以前北京に旅行に行ったときとは違ったイメージを中国に持つようになりました。また、中国人学生や中国に留学経験のある日本人学生と話すことで、知識では知っていても現実で実感したことがないことを実感する契機にもなりました。主にイメージが変わった点は2つあり、一般の中国人でも、出身や人によってかなり違いがある、中国の産業は現在過渡期として急速に成長しつつある、ということです。
②参加後の予定
今回の訪中団では、中国の人、都市、産業に関して様々な発見があり、実りのある訪問になりました。中国は広大で都市によっても様子が全く異なるので、また機会があったら中国の他の都市にも訪れてみたいと考えています。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
夏休み期間、日程が空いているのなら参加することを強くオススメします。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
中国のガイドブック

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2017 年 9 月 3 日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部2
参加プログラム：		派遣先：	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職（希望）先：			
	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界： ）		6. 起業
	7. その他（ ）		

派遣プログラムの概要

日中国交正常化45周年を記念とする日中大学生千人交流大会に参加するとともに、北京と成都で学生交流、企業訪問などを行うプログラム

参加した動機

日中友好に向けた活動や大学生交流に参加し、中国の歴史や文化への理解を深めたかったため

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

参加動機を具体的に書くことが必要

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

無し パスポートのみ

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

無し

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

東京海上日動の海外旅行保険

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

成績表、語学レベルの証明書

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）
日本語の同時通訳などもあったが、英語や中国語ができるとなお良い
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
日本の文化説明ができると良い 参加者間の事前顔合わせ
学習・研究について
①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）
日中大学生千人交流大会、北京大学や西南交通大学の学生さんと交流
②学習・研究面でのアドバイス
積極的に発言、交流すると良い
③語学面での苦勞・アドバイス等
英語と中国語の両方ともできるとより交流しやすく楽しめた
生活について
①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
北京、成都ともホテルであらかじめ用意されている
②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
食費はかからず、バスも貸切。近くにコンビニもある。
③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
スリには気をつける
④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
参加費 1 万円のみ

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）
無し
⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
観光
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
大学生やガイドさんがいらしゃった
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
いずれも素晴らしかった
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
今回のプログラムは日中国交正常化45周年を記念とする日中大学生千人交流大会を中心に北京と成都で行われました。大切な式典に大学生という立場で参加できたことを大変嬉しく感じております。学生交流では、中国の歴史や文化、価値観について伺うことができたと同時に自分自身、日本についての理解ですらまだ足りていない部分があることにも気づかされました。これらの経験を生かし、将来は日本と中国の架け橋になりたいと強く思うようになりました。
②参加後の予定
中国の歴史や文化を学び直し、引き続き中国語の勉強にも励みたい。将来日中友好に貢献できる人材になりたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
本当に充実したプログラムでした。中国に行ったことのある方も、そうでない方も実際に交流の場を経験することで新たな発見ができると思います。一人でも多くの方に日中のことを知っていただきたいです。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
事前に配られた中国に関するガイドブック

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 4日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

「日中友好大学生訪中団 公益社団法人日中友好協会派遣分団」の一員として中国を訪問し、北京大学での千人交流大会に参加する他、西南交通大学を訪問し現地の学生と交流する。また、北京創業公社、成都規格館などの視察を通し現代の中国社会について深く学ぶ。

参加した動機

本プログラムへの参加を希望したのは、中国の学生や生活文化に直接触れ合う経験を通し、より客観的に中国を理解できるようになりたいと感じたからだ。私は3月下旬にも本学のゼミの海外研修で韓国を訪れていたが、その際のソウル大学生とのディスカッションでは、これまでの自分の考えが覆されるような貴重な発見をいくつかもした。特に日韓問題についての認識は日本側と韓国側とで驚くほど食い違っており、直接的対話を通してしか知ることのできない意見があると改めて実感した。中国もまた日本との間に一筋縄では解決できない外交問題を抱える国であり、私は現地の大学生との交流という今回の機会を通じ中国について一方的ではない理解を得て、今後の日中関係について考える土台を作りたいと考えた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

必要書類を揃えて国際交流課に提出するだけで、特に難しい手続きはありませんでした。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特にありません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

北京-成都間は飛行機での移動、その他の場所も連日バスでの移動だったので、酔い止め薬を多めに持っていきました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

協会側より指示のあった海外旅行保険に入りました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
夏休み中に手続きのある進学振り分けに支障をきたさないことの確認を受けました。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特にしていません。中国語は完全に未習だったので、少しは勉強していけば良かったと思いました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
交流する現地学生への日本みやげを持っていけば良かったと思います。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
北京大学での千人交流大会に参加する他、西南交通大学を訪問し現地の学生と交流する。また、北京創業公社、成都規格館、青年などの視察を通し現代の中国社会の発展について深く学ぶ。成都という都市の歴史と現在の姿、今後の開発計画について興味深い学びを得た。成都について名前くらいしか知らなかった私は、その発展ぶりには到着時にすでに驚かされていたが、特に印象に残っているのは成都規格館で、ここでは開発計画のこれまでと今後についての映像を見て、成都という都市のエネルギーと無限の可能性を感じた。
②学習・研究面でのアドバイス
現地の学生は日本のアニメ産業に興味をもっている人が非常に多いので、渡航前に事前に少し勉強しておけば彼らと深い議論ができると思います。
③語学面での苦労・アドバイス等
現地では思っていたほど英語が通じなかったのが、簡単な中国語くらいは覚えていくのがいいかもしれません。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
両都市とも良いホテルに滞在し、きわめて快適でした。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
食事は全て協会側で手配されており、どれも美味しくいただきました。ただ、四川料理の慣れない辛さにお腹を壊してしまった学生もいたようでした。移動は基本的にはバスでしたが、自由時間にホテル周辺を散策するのに地下鉄を利用しました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
日中友好協会から看護婦さんが1名同行してくれていたもので安心でした。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
自己負担は、海外旅行保険加入費として3780円、プログラム参加費として1万円のみでした。国内交通費や渡航費、宿泊費、食費は全て中国大使館から補助が出ました。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
特に利用していません。(前述のように、参加にかかる額の大部分を中国大使館に補償していただきました。)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
今回の訪中に同行してくれた協会の方々はとても親切で、なにか困ったことがあればすぐに対応してくれました。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
訪中前の私は、中国の政治や社会に関心を抱いてはいたものの、中国との今後の関係について自分の意見を持つとする姿勢が欠如していた。しかし今回の訪中で、書籍や報道を通してではなく自身の五感で現地の人々や街、すなわち「生身の中国」に触れたことで、これまでどこか他人事のように感じてしまっていた日中関係を自身の問題として落とし込むことができた。
②参加後の予定
中国語や中国についての教養を深めた上で、数年後に再びこの国を訪れたいです。現在中国語学習経験がないため、第三外国語として履修を検討しているところです。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
自身の中に少なからず形成されてきた「中国に対する固定観念」を取り去って生の中国にがっつき触れることのできる大変貴重な機会です。少しでも興味のある人には参加を強くお勧めします。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特にありません。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 20日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職	☒	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
	7. その他()		

派遣プログラムの概要
中国の文化に触れ、現地の人々と交流することで、日中の友好関係を強化する目的の中国訪問。
参加した動機
中国に強い興味があり、現在の北京や成都といった大都市がどのような様相を呈しているのかをこの目で確認したかったから。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
書類提出、パスポートの準備。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
短期だったので不要
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
常備薬として整腸剤を持って行った。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
大学から案内された保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
教務課に行き、プログラム中の大学での予定の説明を受けた。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英検準一級、HSK3級
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
辞書
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
北京大学や西南交通大学の学生の英語力の高さに驚いた。
②学習・研究面でのアドバイス
③語学面での苦勞・アドバイス等
中国語における発音の重要性。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
既定のホテル
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
北京の空気は極めて悪い。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
財布を目に見えるところに出すのは最小限にした。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
1万円
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
観光
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
ガイドの方の説明も丁寧で非常に手厚かった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂の充実ぶりがすごかった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
自身の目で見えて聞いて判断することの重要性を改めて感じた。
②参加後の予定
中国を定期的に訪問したい
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 11 日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	日中友好訪中団	派遣先:	
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣プログラムの概要

北京と成都にそれぞれ3日ずつ滞在しました。メインは大使館事業である、日中外交正常化45年記念式典での1000人交流会への出席であり、キャンパスツアーや北京大学生とのディスカッションなどを行いました。他には万里の長城や都江堰といった世界遺産を訪れたり、イノベーションセンターや成都規格館、青少年育成センターなど公的機関を訪れ発展する中国の姿を学んだり、日本語学校や西南交通大学を訪問し、同年代と交流を深めたりしました。

参加した動機

歴史・文化・産業・自然といった様々な面から現在の中国を知ることができるプログラムだと思ったから。北京と成都という1人では両方訪れるのが難しい都市を網羅していながら参加費が1万円というのはまたとない機会だと思いました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

応募、参加費払込、保険の手続きなどを指示に従って進めればよく、簡単でした。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特に必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に必要ありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

海外旅行付帯保険を協会側で一括申し込みをしてくださいました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特に必要ありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特に必要ありませんでした。本プログラムは通常、中国訪問経験がない人を対象としているらしく、中国語が全く話せない人でも大丈夫だと思います。ただ、現地の人が英語が通じない場面も多く、少し勉強しておけばよかったと思いました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
中国語の日常会話くらいは出来たほうがいいと思います。タクシーの運転手さんは英語が通じません。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
交流がメインのプログラムだったので、勉強は特に必要ありませんでした。
②学習・研究面でのアドバイス
特にありません。
③語学面での苦勞・アドバイス等
北京大学生とは英語でコミュニケーションが取れましたが、他の大学生や現地の人は英語が通じず、コミュニケーションが難しかったです。ガイドとして日本語学校の生徒さんがついてきてくれたので、特に苦勞はありませんでした。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
協会が用意してくださったホテルに宿泊しました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
最初に5000円を両替してくださったのですが、交通費も食費も込みなのでそれ以上にお金は必要ありませんでした。朝夜の自由行動の際に電車は使いましたが、他はバスを用意してくださっていました。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特にありません。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
最初に両替した5000円をお土産に使った以外は全て用意してくださっていたので必要ありませんでした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
特にありません。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
特にありません。
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
上で書いたように、金銭面、語学面、すべていたせりつくせりでした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
特にありません。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
中国に対して、発展途上国といった印象を抱いていたのですが認識を改めました。まず都市計画について、北京成都ともに広く、建物もデザイン性と統一性が素晴らしかったです。イノベーションセンターや規格館見学を通して、全体で前進しようという熱意が伝わり、人口とその人々の活力を鑑みても日本よりずっと可能性にあふれていると感じました。大学生も勉強に熱心で、日本の大学生は井の中の蛙であるなど感じずにはいられなかったです。また、今までのプログラムでは英語でコミュニケーションが可能だったのですが、今回は中国語しか通じない場面もあり、現地の言葉を習得する必要性を感じました。
②参加後の予定
中国語を1から習得するのは難しそうなので、第二外国語であるフランス語の習得に力を入れて、留学に挑戦し、異文化での生活を通して違う価値観の理解をしてみたいです。また、今後の中国の発展に注視するとともに、日中友好活動があれば積極的に参加したいと思います。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
百聞は一見にしかずです。発展する中国の姿を実際に行って体験するのに、これほどいいプログラムは無いと思います。ぜひ参加してみてください。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特にありません。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月7日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	日中友好訪中団	派遣先:	北京、成都
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	✓ 7. その他(未定)		

派遣プログラムの概要

日本と中国の二国間関係が良好とはいえない昨今、これからの時代を担う大学生(特に中国に実際に足を踏み入れたことがない学生)を北京、成都へ派遣し現地大学生との交流やエクスカージョンをとおして相互理解を深める、というプログラム。本団は日本の6大学で構成されていた。学生交流では北京大学、西南交通大学の生徒らとそれぞれディスカッションやキャンパス散策、絞り染めの文化体験をとおしていろいろな話をした。エクスカージョンでは、万里の長城やパンダ基地、さらには杜甫草堂など、世界的な文化遺産に足を運んだ。

参加した動機

一つには、一週間という限られた時間の中で何を学び取ることができるのかという自分への挑戦として応募しました。ただ、この動機は今回のプログラムに特化したものではありません。
今回のプログラムに特化した志望理由としては、日本と中国が地理的にも文化的にもそして外交的にも隣国と呼べる関係にある中で自分が中国について知っていることはあまりにも少なく、また自分の勝手な偏見に満ちた視線で中国という国を捉えていることに気付き、実際の中国を目で見て肌で感じ、日本の国際人としての素養を築きたかったというものがあります。グローバル化が進む世界でも重要な位置にいる中国の本当の姿を知っておきたかったのです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

保険の加入手続きを主体的に期日に間に合うように行う必要があった以外は基本的にすべてプログラム主催者の方で用意していただいていたので手続きは本当に楽でした。航空券や宿はもちろん細かい日程なども全面的に決めていただいていた。しいて言えば現地では日々刺激的な生活で意外と疲れるので事前に読んでおける資料(エクスカージョン先の説明やディスカッションの概要など)は読んでおくと余裕が生まれかつより楽しめると思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国への一週間の渡航ではビザを取得する必要はないので特に何もしていません。もしかしたらパスポートの有効期限が残り何か月以上、のような指定があるのかもしれませんが、自分の場合はパスポートの取得時期からして余裕があったので確認していません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

事前準備で医療関係手続の指定はなく、持病も特になかったので特別な対処はしていません。渡航では下痢止めと頭痛薬だけ持っていきました。薬ではありませんが、中国の衛生環境がよくわからなかったのでトイレトーパー、ティッシュ、ウェットティッシュを持っていきました。結果的にはホテルもレストランもとても衛生環境が整っていたので必要はありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学経由で参加したプログラムなので、参加者に加入が義務となっている付帯海学に加入しました。他に追加での加入は入っていません。自分はあてはまりませんが、海外に行くと、所持しているクレジットカードの関係で特に手続きなく保険に加入している人もいました。付帯海学は郵送で送られてくる被保険者証を渡航前に受け取る必要があるので申請・振込は早めに済ませておくのと直前に焦らなくてよいと思います。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

プログラムの実施期間が夏休み中であるということもあり、公式な手続きが必要な科目等がなかったので特に何も行っていません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前の語学レベルはIELTS7.0、英検1級です。中国語は完全に未経験でした。このプログラムへの参加が決まり中国語の挨拶レベルの単語をいくつか覚えましたがその程度です。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

宿はきちんとしたホテルだったのでwifiが完備されていましたが、今回のプログラムはバスで様々な場所に移動し、移動先にはwifiがないことがほとんどです。僕はSNS等は一日一回見ることであれば十分なのであまり気にならないのですが、頻繁にみる方はレンタルwifiを持っていく必要があると思います。また、海外渡航全般の話にはなりますが、コンセントのコンバーターは一応持っていくことをお勧めします。あとは、上記「③医療関係の準備」に記載した通りです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

この訪中団は6大学の計約100名の大学生に事務局の方数名を加えた編成でした。訪中団は3つのグループに事前に分けられており、バス移動もこの3グループがそれぞれ1号車、2号車、3号車に乗車します。夜にホテルから自主的に観光する以外はすべてバス移動でした。一週間一緒に過ごすので他の大学の人たちと仲良くなれてよかったです。プログラムの中にはいわゆる「勉強」といった感じのものはあまりなかったと思います。全行程にわたって、予習というものは特にしませんでした。万里の長城や杜甫草堂、錦里へのエクスカーションはまさに観光で、風景や買い物を純粋に楽しませていただきました。いっぽう、北京大学との交流では、自分が所属した班では北京大学の学生と日中関係について15分ほどディスカッション、その後ディスカッション内容を発表するという機会がありました。アニメについてのディスカッションを通じて交流ができてよかったです。また、成都の西南交通大学では伝統文化である絞り染めをデザイン学科の人たちの教えのもと体験しました。個人的に創作活動が好きなこともあり、学生交流と同時にこの文化体験も存分に楽しみました。

②学習・研究面でのアドバイス

上記「①プログラムの概要」に記載のとおり、いわゆる「勉強」チックなものはほとんどありませんでした。ただ、北京、成都両都市で多くの行程で日本語を学んでいる学生たちが同行してくれましたので、彼らと色々話したことが「勉強」なのかもしれません。せっかく中国まで来て日本の大学生とばかり話すのも勿体ないので、同行してくれている中国学生に積極的に話しかけ、また話しかけてくれる学生を大事にすることが大切なのかな、と思います。彼らの日本語は日常会話に全く支障がないレベルに上手なので、コミュニケーションで支障が生まれることはそうそうないと思います。逆に、中国語を勉強している日本側の大学生は積極的に中国語で話しかけていました。

③語学面での苦労・アドバイス等

上記「②学習・研究面でのアドバイス」にて書いてしまいましたが、語学面では今回ほとんど苦労していません。同行してくれた中国側の学生たちはみな日本語が上手でした。夜に自主的に観光に向かった時はもちろん日本語は通じないわけですが、観光客が多い都市なのでしょう、特筆するほどの不自由は感じませんでした。プログラム内では唯一、北京大学学生とのディスカッションが英語が基本言語でしたが、実際のところ日本語が分かる中国学生と中国語が分かる日本学生で何とかなってしまったケースがほとんどだったと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

北京、成都両都市で宿泊は一流ホテルでした。2人一部屋でしたが十分広く、シャワーやトイレもきれいな上にアメニティもしっかり整備されており、水はボトル入りが一日一人当たり一本補充されました。ルームサービスも毎日行われ、空調設備、さらにはwifiも不自由なく、非常に快適な宿泊環境でした。両ホテルとも朝食がついており、この朝食がまた中国風buffetスタイル(中国風でないものももちろんおいてありますが)でとてもおいしかったです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

中国側学生もいっていましたが、8月の終わりは北京・成都ではもう秋のはじまりです。万里の長城に上った日は暑くみな汗ばんでいましたが、そのほかは冷涼で、それでも厚着は必要ないという心地よい気候だったと思います。交通機関に関しては、プログラム自体では訪中団用のバスしか使っていませんが、夜・朝の自主的観光で地下鉄を使いました。駅もきれいで交通網の整備水準の高さを感じました。また、食事はすべて用意していただいており、どれも本場の中華料理で美味しかったです。とてつもなく辛かった麻婆豆腐が印象深いです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

プログラム中は常に団体行動で、なおかつ事務局の方が必ず近くにいたので安心でした。ホテルからの自主観光でも単独行動は禁止されていました。夜おそくまで外出していた日もありましたが、通った道は総じて治安がよく、怖い思いをすることはまったくありませんでした。健康を害することもなく、たくさんの日本学生、さらにはたくさんの東大生と同行してのプログラムで、みな個性的ながら話しやすい人がたくさんいたので精神的に苦しみこともまったくありませんでした。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

プログラム参加費で事前に支払った1万円と、現地通貨を5000円で入手しました。一方で、国内交通費補助を主催者から3000円いただきました。航空費や宿泊費、食費、交通費などを追加では支払っていません。総じて破格のプログラムだったと思います。現地通貨は参加者のほとんどが5000円分かえていましたが(事前にこれを勧める連絡がありました)、一部のすでに現地通貨を持っている人はそれを行わず、また逆に追加が必要になった人は1000円単位で同行のガイドさんと通貨交換をしていました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

ありません。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

プログラムの行程のほとんどが文化活動にあてはまるかと思います。万里の長城はじめエクスカーシオンはもちろん、大学での交流でも絞り染めの体験は文化活動の一環といった感じでした。中国の世界的な遺産を体感できたことにくわえ、街中を歩いて生活文化も肌で感じる事ができたのは貴重な体験でした。また、最終日に青少年宮に行き五方拳(違うかもしれませんが)というカンフーのような武道とちょっとした工作を現地の子供たちと一緒にしたのは非常に楽しくて、印象に残っています。

派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
自分に限らずほとんどの参加者がここからプログラムを楽しんでいたようで、精神面でのサポートが必要となるような場面はなかったように思います。その他生活等の面では行程が事前に綿密に組まれており現場でサポートしていただくというよりは事前にサポートされきったプログラムに参加したような感覚です。食事や移動、宿泊、体験活動にいたるまで滞りなくことが進み、充実した1週間を過ごさせていただきました。一部、スケジュールをまく必要がある場面がありましたがその時もスムーズに対応していただき、感謝でいっぱいです。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
今回はプログラムの中心が大学開催ではなかったなのでこの項目はあまり書けませんが、訪問した北京大学、西南交通大学ではそのキャンパスの広さに驚きました。また、西南交通大学ではまるで超大型百貨店の様なサイズの図書館を目の当たりにし、それも本当に驚きました。また、両大学の食堂は東京大学駒場キャンパスのものに似た雰囲気でした。学校給食の様な形での配膳でしたが、我々のために特別な措置が行われていたらしいので普段は違うのだらうと思います。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
自分の参加動機に沿ってこのプログラムでの活動を振り返ろうと思います。まず、第一の目的は糧にできるものを文字通りできるだけ得ること。以前に参加したロシアでのプログラムでは国際的に様々なバックグラウンドを持つ人たちとの交流がメインでしたが、今回はバックグラウンドの多様性はないながらもそれでも同じ人はいない、という状況でした。探せば探すほど、話せば話すほど互いを知ることができそしてもちろん関係を構築することができる。中国の学生だけでなく、多くの日本側の学生とも交流することでこれを痛感しました。ここで得た人脈を一時のものにしないようにしたいです。また、第二の目的は中国という隣国の素顔を知ること。今までの自分の中国へのイメージがかなり偏見に満ちたものであることを実感しました。渡航前の自分を振り返ると、偏見があるがために、むしろそのためだけに生じている国際問題がきっと数多くあるのだらうな、と思いました。
②参加後の予定
このプログラム後、夏休みの残りは旅行とサークル活動にあてます。そして夏休みが明けると2年生のAセメスターとなりついに専門科目が始まります。学部より具体的な専門はまだ決め切れていませんが、経済学部に進学することにしたので、このプログラムに限らず自分の経験で得た国際的な視点を大切にしつつ国際経済や開発経済、はたまた都市経済についての勉強を怠らずにしていこうと思います。また、こういったプログラムが自分にもたらす大きな利益を実感したので、海外プログラムへの参加を臆することなくしていこうと思います。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
もしも中国に足を踏み入れたことがないのなら、このプログラムでなくとも一度中国にいくと間違いなく印象は変わります。そして、その一度中国に行く機会として、このプログラムは最適だと思います。万里の長城やパンダ基地といった誰もが知っているところから錦里、杜甫草堂までエクスカージョンで行けます。さらに、ただの観光と決定的に違うのは現地学生との交流が二大学でできること、また青少年宮で子供たちと時間を過ごすのもとても貴重な経験になると思います。ただの観光でもただの研究でもないこのプログラムは本当におススメです。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
事前に送付いただいたJTBの中国ガイドブックを読みました。背景知識がある状態でエクスカージョンに臨むと数段たのしみが増すと思います。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9月 10日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☐	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

北京大学での千人交流会への参加。文化交流。北京と成都の観光。

参加した動機

中国に興味があり、一度行ってみたかったから。同世代の中国人と交流できるのが貴重な機会で面白そうだったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大の事務局に出す書類をそろえるだけ。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

下痢止めは持って行ったほうがいい。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大で入るものに加入。個人ではなし。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

参加志望書の提出。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
中国語未学習。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
中国語の勉強をやっていくといいです。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
北京大学での千人交流会への参加。文化交流。北京と成都の観光。
②学習・研究面でのアドバイス
特になし。
③語学面での苦勞・アドバイス等
英語が通じない。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
プログラムに組み込まれていたホテル。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
食事つきだった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特段心配なし。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
2万円。(プログラム参加費1万、お小遣い1万)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
無し。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
無し。
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
サポート体制十分。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
中国への興味が増した。中国語学習への意欲が高まった。
②参加後の予定
中国語をもっと学ぶ。中国への長期留学も考え始めた。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
少しでも中国に興味があれば、行って損は絶対にはないです。かなり楽しいです。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 16 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:		派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣プログラムの概要

日中大学生訪中団として北京・四川へ派遣

参加した動機

中国に興味があったから

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

なし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

なし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

指定のものの振込のみ

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

なし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
中国語を少し勉強したが、実用には至らず英語と日本語で学生と交流した。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
マスク
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
②学習・研究面でのアドバイス
③語学面での苦労・アドバイス等
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホテルが手配された。非常に豪勢だった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
予想以上に待遇が良く、生活費は不要だった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
日中友好大学生訪中団の最初も最初、概要説明時の言葉が非常に印象的だった。「創業-ソウギョウ-というのは日本語で言うとイノベーションのような意味です。」 この発言に対し僕は三つの疑問を持った。まず一つは「創業」は何語か、ということだ。創業はわざわざ説明されるくらいなのだから日本語ではないだろう。では中国語？ 创业ならば、そう言えるだろう、しかしそうではない。この創業という言葉はその中間だ、いわば、レ点のついた漢文のようなものだ。そして、次の疑問に差し掛かる、では「イノベーション」は何語なのだろうか？ イノベーションはinnovationではない、英語とは違う。そして、「日本語でいうと」という文脈的にイノベーションは「日本語」なのだろう。ここで、最後の疑問が生まれる。創業とイノベーションの違いとはなんだ？ どちらもその由来、形式-日本語の音で読まれる、外来語である-、そして意味までもほぼ同じだ。しかし、前者は説明を要する外来語、後者は説明そのものとして機能する日本語である。この二つの言葉の位置付けを決めたのは、現代日本人の意識そのものではないだろうか？ つまり、これは中国文化よりも欧米文化に対しより親和性を感じる現代日本人の心の表れではないか。日本と中国との間にある“壁”の存在、これらの疑問はそれを示唆するものだった。 “壁”は僕らの目さえも塞ぐ、その証拠に“壁”の向こうの本当の中国は僕の予想とは格段に違ったものだった。予想以上の人の数、街の発展、技術の革新、例を挙げればきりが無い。しかし、中でも最も衝撃的だったのは、中国の人々だ。今回の交流で、僕らは様々な中国の人々と触れ合うことができた。それは学校交流だけでなく、バスガイドさんや、観光先であった人々や、ともかくたくさん、色々な人にだ。正直、僕は中国の人々に対してステレオタイプを持っていた。しかし、今回の訪中でわかったのは、僕が想定していた“中国人”がいかに幻想であったかだ。中国の人々は、“中国人”なんてステレオタイプでひとくくりにできるような等質的なものではない。中国には十三億人以上のそれぞれ個性を持った人々がいる。 最近日本の一部でヘイトスピーチが行われている。その中で、例えば中国人は卑怯だ、とか、盗人ばかりだとか、そういった歪みきった主張をする人々がいる。彼らは“壁”の向こうの中国を見たのだろうか？ 十三億人以上の人々を見たのだろうか？ 無知が敵意を呼び、敵意が好意的な関心を封じ、さらなる無知を生み出す、この構造で“壁”はどんどん大きくなるばかりだ。いつかは本当の壁となってしまうかもしれない。 しかし、この“壁”は、例えば万里の長城に比べれば弱いものだ。物理的に存在するわけでも無いし、まだ長い歴史で積み上げられたわけでも無い。“壁”は僕らの心の中にだけ存在する、まだできたばかりの小さな小さなものだ。この“壁”を壊す方法はただひとつ、知ろうとすることのほかにない。お互いがお互いに関心を寄せれば、“壁”は本当はないのだと、分かり合えるのだと気付けるのだろう。今回の訪中で学んだ最も重要な点はそこだ。しかし、関心は自然には生まれづらい、ましてや最近の情勢は自然な関心を妨げている。だからこそ僕は、善い関心の種を日本中に蒔けるよう、これから尽力していきたい。
②参加後の予定
日中友好協会に入会する所存。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 09 月 06 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	日中友好訪中団	派遣先:	中国(北京・成都)
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

2週間各大学5~20人ほど集まり合計100人ほど参加して北京と成都を視察する。費用は参加費1万円のみのみ。万里の長城などの観光地を訪れたり、北京大学など大学生との交流もある。他にもイノベーションセンターのようなところへ行き中国の発展していく様子を学ぶ。中国の方による日本語ガイドがあるので中国語ができる必要はない。

参加した動機

中国語選択だったため少しでも中国語を使える機会が欲しいと思っていたためと、以前東大の主題科目で中国の南京に1週間滞在したことがあり、訪れる都市も違うのでまた違った観点で中国を見ることができるのではないかと考えたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

日中友好協会から送られてくる資料に従って手続きをすれば良い。基本的に1万円を振り込むだけで済むので手間はさほどかからない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

自分が必要な常備薬を持っていきさえすればよい。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学研災付帯海外留学保険に加入(義務付けられていた)

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
基本的には日本語ガイドがいるので高い語学力がなくても大丈夫。ただ中国語が多少できた方が現地で役に立つ。現地の人は英語もできない人が多い。ガイドは常にいるわけではないので自由時間のときの買い物や道に迷った時など、実際に中国語を話して役に立った。自分の中国語のレベルはそんなに高くなく、1年時にS・Aセメともにインテンシブをとり、2Sで中級会話をとった程度。大学生とのディスカッションの際は英語なので英語のレベルが高い方がより濃い内容をしゃべれると感じた。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
授業はない。学習系は、イノベーションセンターに行って中国のいろいろな先端技術や都市計画学んだ。日本と比べ物にならないほどの金と土地を使って未来に投資していると感じた。日本と違って未来に希望を持っている印象を受けたのが印象的だった。
②学習・研究面でのアドバイス
特になし。
③語学面での苦労・アドバイス等
中国語が多少できた方が買い物などをすると役に立った。ただこちらが話せるとするとネイティブのスピードで返され聞き取れないので、それを聞き取れたらなおよかったなと思った。英語は大学に通っている若者以外は基本通じないと考えてよい。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
日中友好協会が用意してくれたホテルに宿泊。北京と成都で二つのホテルに宿泊したが、ネットで調べると三ツ星、五ツ星ホテルで大変居心地がよかった。2人で1部屋だった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候は日本とほとんど変わらない。少し涼しいくらいだった。交通機関は地下鉄、バス、タクシーがあるが、地下鉄が外国人には安全でわかりやすいのでおすすめである。食事は毎回中華料理が用意されていた。中華料理は毎回食べられないほどの量が出てきて毎回食べられず、残すことに躊躇する文化のある日本人にとっては、残すことを厭わない中国に違和感を感じるかもしれない。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
すぐに盗まれたりするほど治安は悪くないが、日本よりかはもちろん治安はよくないのでバッグを開けたままにしないなど注意は払う必要がある。屋台などの出店はほとんどぼったくりなので最初に提示してきた値段で買わないことが重要。値下げ交渉をできるならした方がよい。不安なら屋台系の店では買わない方がよい。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
参加費1万円のみ。その他現地での個人的な娯楽費として5千円を両替した。ほかの宿泊費・航空費・食費などはすべて中国大使館が負担。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
朝の8時くらいから夜の9時くらいまでプログラムがびっしりで自由時間は始まる前の早朝か帰った後の夜遅くにしかないのでホテルから近場にしか出歩けなかった
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
日本語ガイドがいるため語学面での心配はほとんどない。視察が多いので学習面も安心してよい。毎日よいホテルと食事を用意してくれるので生活面にもなんら心配はない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
今回は大学で授業を受けるなどのことはなかった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
前回南京に主題科目で行った時は貧しい人々の地域を主に見ていたため、今回はまた違った観点を得られた。日々革新をし続けており将来に希望を抱き輝いている印象を得た。投資する金と土地も莫大で、今勢いよく発展していることを身にしみて感じた。今回のプログラムではそのような中国の明るい部分を見せられたが、前回南京にいて見て感じたものと比べると、やはりこの輝かしい発展の裏には格差ある貧困層の存在があるのだとも感じられた。
②参加後の予定
特になし

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

1万円で1週間好待遇で行けるという非常によい機会です。中国に対しいい印象を持っていなかったが1万円ならということでこのプログラムに参加したという声も聞きました。どんなイメージを持っていようとも行ったらなにか感じるものがあるはずです。よいイメージを持っていなくても1万円ならという軽い気持ちでもいいので参加してみてはいかがでしょうか。

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 9 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☒	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☐	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

今回は日中国交正常化45周年にあたり、少々変則的な様でしたが、中国政府の指定した7大学が日中友好協会が派遣元となって、一週間中国を見て回り、現地学生との交流を図ることで中国をよりよく理解しようというものです。中国は北京と成都を訪れました。大学は主に、北京大学、西南交通大学、北京第二外国語学院にお世話になりました。

参加した動機

中国に興味があった。第二外国語が中国語でネイティブと話せる機会を持ちたかった。メディアに惑わされず自分の目で中国を知り、自分の頭で中国を考えたかった。費用が非常に安かった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流課のかたに親切に教えてもらえるので、とくに苦労する場面はない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

何も持って行かなかった。マスクすらなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京海上日動火災保険株式会社の海外旅行保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

成績は1年のSセメ終わりで何も出ていなかったのでもなし。ただ、応募する際教務課にその許可をいただいた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特になし。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
中国料理はとても油が多いので、胃もたれしやすいかと思います。胃薬を持参したほうがいいです。ほかに、私自身は感じませんでしたが、北京の空気が悪い様で、目の痛みや喉の痛みを訴える団員もいたので、マスクなどの対策はしたほうが良いかもしれません。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
なし。
②学習・研究面でのアドバイス
なし。
③語学面での苦勞・アドバイス等
なし。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
中国側用意していただいたので、とても快適なホテルに一周間泊まることができました。相部屋でした。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候的にも日本とさほど変わらず過ごしやすい。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特になし。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
参加費用1万円、保険代5千円、交通費5千円、土産代1万5千円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
「ポリティカルな問題にはフフフ」と「自分の目で見て、自分の頭で考えて、自分の頭で判断する」を金句とし臨みました。今回の訪中はとても意義深いと感じています。百聞は一見に如かずと言いますが、日本での「中国」の「百聞」は間違いだらけで、いかに「一見」が大事かと痛感した訪中でした。一衣帯水の隣国として、大昔からの文化のお手本としてあり続ける近くて遠い中国をこの目で見れたことは大変な財産です。
②参加後の予定
専門としてはサイエンスを学び続け、これから機会を得て日中友好を大きな規模でも個人レベルでも目ざしていきたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
中国に興味がある人はもちろん、中国に興味がない人もものは試しと応募してみても如何でしょう。中国人は優しく、誇りを持っていて、活発で笑顔の素敵な人たちです。中国の技術的な発展もすごい勢いで日本人としてその危機感を感じるのにも良いのではないのでしょうか。なにとはともあれ、中国は純粋に壮大で面白い国です。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 6日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	日中友好訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☐	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

中国大使館が、日中国交正常化45周年を記念して日中友好協会に大学生の派遣を依頼した。その一環で、大使館が選んだ7大学(学習院大学、昭和女子大学、中央大学、東京外国語大学、東京女子大学、東京大学、山口大学)から大学生100名を派遣したプログラム。

参加した動機

学部1年次に初修中国語を履修、興味を持って学習し、2年次にも選択科目で履修した。自分の中国語能力を活かして、生の中国を見てみたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的には、東京大学および日中友好協会から指示された通りの手続きのみを行った。手続きとして行ったのは、参加費用の振り込み・保険の加入・OSSMAの加入。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

本プログラムでは、ビザは不要だった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

持病はないので、特に準備はしなかった。国内旅行と同じだろうが、常備薬を持参した程度。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学本部国際交流課から指示された保険に加入。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位認定もなく、夏季休業期間中に行われたので、特に手続きはしていない。ただし、進学選択の第二段階の手続きに被った人もいたかもしれない。私は、第一段階で内定した(する確信があった)ので、何もしていない。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
中国語検定3級を取得(学部1年次3月)。英語は、申請段階では特になかったが、プログラム開始直前に受けたIELTSでover allで6.5。中国語の学習は、夏季休業期間に入っても続けた。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
現地語を学習しておく役立つ。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
授業ではなく、観光地を回ったり、大学生と交流したりした。観光地をまわる際には、中国で日本語を学んでいる、日本語学科の学生が通訳として同行してくれ、非常に楽しかった。北京大学では、北京大学の学生と英語でスモールディスカッションをし、彼らの英語力に感心した。
②学習・研究面でのアドバイス
何を学ぶかをきちんと確定させてから行くこと。現地語をある程度使えるようになっておくこと。
③語学面での苦労・アドバイス等
中国語を自分が話すことはできても、聞き取れないことが多々あった。しかし、通訳の学生か、日本語を話すガイドの方がとなりにいたので、困ることは無かった。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
日中友好協会・中国大使館から用意されたホテルに宿泊。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
涼しめだった。夏ということもあって、薄めの衣服ばかりを持って行っただが、中国には四季があるので、厚めのものも持っていくべきだった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
スリなどの犯罪に合うことのないよう、気を付けた。基本的には、団体行動をしていたので、怖い目に遭うことはなかった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
日中友好協会に振り込んだ参加費用10000円、および、現地での土産・洗濯代(約5000円)のみ。宿泊費・航空機代などは、中国大使館負担。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
上述の通り、支払ったのは参加費10000円のみで、宿泊費・航空機代などは、中国大使館負担。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
特に無し。
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
日中友好協会の協会の方で、中国語を話せる方がいたり、現地で日本語を学んでいる中国人の方に付き添ってもらえたりした。語学面でも、精神面でも、サポートは十分にあった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
本プログラムで大学に行ったのは、1週間のうち、2日間の午後のみ。充実していた。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
一年半の中国語学習の成果を出せた。中国語・日本語両言語でスピーチをする機会もいただけて、光栄だった。ただ、中国人の話す中国語を聞き取れるレベルには達していないので、ますます学習を続けたいと思った。
②参加後の予定
薬学部に進学するので、中国とどう関わることがわからない。研究職を希望しているが、「中国語を話せる理系研究者」のような、only oneの存在になりたい、と夢見ている。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
安く行けるプログラムには、是非応募するべき。個人旅行では行けないところに連れて行ってもらえるかもしれない。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
外務省のHPIは確認すべき。たびレジの登録もした。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 22 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

北京大学で行われる日中友好千人交流大会への参加をはじめとして、北京と成都の両都市で現地の大学生との交流を行いました。他にも、現地の企業や自治体の活動を見学させていただく機会もありました。

参加した動機

中国を訪問したことがなく、以前から一度訪問してみたかったことに加えて、ただ観光で訪れるだけではできない、現地の大学生と交流できるということに魅力を感じて参加を決めました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラムの参加に際して、志望理由書と個人情報の提出が必要です。保護者の印鑑が必要な書類もあるので、親元を離れて一人暮らしをしている方は前もって保護者と連絡を取って段取りしておくといいでしょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国に入国する際はビザは不要でした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

中国を訪問するにあたって特別な準備は必要ありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

派遣元団体が指定した「付帯海学」という保険に加入しました。その他には特に加入した保険はありません。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

東京大学が派遣元のプログラムではないので、校内選考として志望理由を書いた作文を提出した以外は特にありません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英語に関しては中級程度、中国語に関しては全く学習したことがなかったので、出発前に挨拶など最低限の表現を勉強しました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
中国はネット関係の規制が厳しいので、日本にいる時と同じようにネットを使いたいのであれば、あらかじめVPN等で環境を整えておくと思いしました。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
プログラムの概要については上の派遣プログラムの概要で述べた通りです。プログラムの内容で特に印象に残っているものはやはり北京大学で行われた千人交流大会です。日本と中国の各地から大学生が集まって共に話し合うという貴重な体験をし、ただの観光では味わえない、国際交流プログラムならではの醍醐味を味わうことができました。
②学習・研究面でのアドバイス
何と言っても現地の学生と積極的に会話する。ということに尽きると思います。ただの観光ではなくプログラムの一環として中国を訪問するわけですから、その意味を考えて行動するべきです。国籍は違っても相手も同年代の大学生なので話はすぐ通じると思います。ぜひ自分から能動的に交流してみてください。
③語学面での苦勞・アドバイス等
先述の通り、僕は中国語をほぼ未習で中国へ行ったのですが、同行の友人が中国の学生や店の店員と中国語でやり取りしているのをみてすごく羨ましく思ったので、このプログラムに参加が決まった人は長期休暇等を利用してある程度しっかり中国語を学んでおくと、中国の訪問がより有意義になると思われます。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
宿泊先は全て日中友好協会が手配してくださったホテルでした。ホテルは両都市とも日本のものと比べても全く遜色なく、とても快適でした。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
両都市とも地下鉄等の公共交通機関が整備されていて、市街地の移動に不便はありませんでした。食事についても屋台のもの以外は衛生的に問題なく、美味しい中華料理が食べられました。ただ、北京では空気の汚染が気になる日もあったので、気になる人はマスク等を準備しておくと思いします。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
両都市ともグループならば夜間の外出もほとんど問題ないくらい、治安は良かったです。体調に関しては水道水は飲用しないということに留意しました。中華料理は油っぽいものが多いので、お腹が弱い人は気をつけた方が良いでしょう。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
協会への参加費、保険代、現地での娯楽費を全て足すと、およそ2万円強になります。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

奨学金は受給していません。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

1日のプログラムの行程が終了した後は基本的に自由時間なので、同行の友人や先輩とホテルの付近を散策したり買い物に出たりしました。

派遣プログラムの環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

今回のプログラムのサポート体制は本当に申し分なかったです。ホテルや食事はもちろん、語学面についても、日本語が堪能なガイドの方がいらしゃったり、学習面でも現地の学生との交流機会を豊富に設けてくださったので、全く不安なくプログラムを楽しめました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

今回、北京大学と西南交通大学の二つの大学を訪問しましたが、いずれの大学も比較的新しい建物が多く、ディスカッション等をするのに一切不自由はありませんでした。ただ、手洗いに関しては日本のものと比べると設備が十分でないところが多かったので注意が必要のように感じました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムの意義はやはり中国の大学生と交流できるということにあると思います。訪問する北京大学と西南交通大学の学生の他にも、北京第二外国語大学の日本語専攻の学生と交流する機会があったのですが、彼らの日本語のうまさや勉学に対する意識の高さにはただただ驚嘆するばかりでした。大学交流の他にも、中国のベンチャー企業や都市計画など、今なお発展を続ける中国の最前線を見学することもできました。帰国した今プログラムを振り返ってみると、中国の産業や大学での学びに触れ、中国の今を知ることができただけでなく、日本で大学生として過ごせるということの意義や自分の進路についても深く考えることができた大変有意義な期間になりました。

②参加後の予定

今後も派遣元である日中友好協会が開催する日中友好関連の行事に参加する予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

このプログラムは短期かつ費用的にも参加しやすいので、留学や海外に興味のある方はぜひ参加してみるといいと思います。中国の学生だけでなく、同行の日本の他大学の学生とも親交を深めることができ、中国に滞在している時だけでなく、帰国してからも日中友好に関する活動に継続的に取り組める大変素晴らしいプログラムです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありません。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 15日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	日中友好大学生訪中団	派遣先:	日中友好訪中団
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☐	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣プログラムの概要

一週間中国へ行き、現地の学生と交流することなどを通じて、日中友好を促進する。

参加した動機

実際に中国の発展や状況をこの目で見てみたいと思ったため。また、日中の友好関係の促進に関心があったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ある程度の英語力を証明できるよう、英検準一級を取得した。TOEFLなどで好成績を収めておくといいと思う。また、事前に行き先のことを調べておくといいと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは取得しなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

風邪薬と胃薬を用意した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

公益財団法人日本国際教育支援協会の学研災付帯 海外留学保険

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

中国語初級の履修

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英検準一級、中国語初級の履修
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
現地の学生への手軽なお土産を持っていくといいと思う。語学の勉強は必要だと思う。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
基本的には中国との学生と行動を共にしていた。万里の長城が特に印象深かった。その他、中国の学生との交流からは学ぶことがたくさんあった。
②学習・研究面でのアドバイス
自分から取り組んでいけば、より多くのことを学ぶことができると思う。
③語学面での苦労・アドバイス等
中国語を話せない状態で渡航したため、買い物をするときに値段が分かりづらかったり、値段交渉ができなかった。ある程度は現地の言語を話せる状態で行くと良いと思う。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
事前に手配していただいたホテルに宿泊した。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
天候は基本的に晴れが続き、暑かった。バスでの移動がほとんどであった。お金は複数の財布に分けて管理していた。絶対に貴重品は身から離さないようにした。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安の良い場所であった。食べ過ぎに注意して、早寝早起きを心がけた。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
一万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
なし。
派遣プログラムの環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
通訳の方が同伴かつ、生活面もとてもサポートされていた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
特に利用していない。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
一週間という短い期間ではあったものの、自分の目で中国を見て中国の人とたくさん話をすることができたことで、中国に対する認識だけでなく、日本に対する認識も改まった。また、今後ますますグローバル化が進むであろう現代社会において、英語だけでなく複数の外国語を話すことのできる重要性を感じた。日中友好に今後も携わっていききたいと思うようになった。
②参加後の予定
中国語、英語の勉強にこれまで以上に取り組み、中国に再び訪れる。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
語学の勉強を事前にしっかりとしておき、現地では自分から積極的にプログラムに
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。